

2023
春号

富山大学ニュースレター spring.2023. vol.08

富山
大学

News Letter

富山大学HP

twitter →

YouTube



Contents

P.1 学部1年生限定 短期海外派遣プログラム
P.4 研究紹介
P.5 富大ニュース

P.6 受賞者一覧
P.7 富山大学基金事業 留学体験記
P.8 富山大学基金へのご寄附のお願い



学部1年生限定 短期海外派遣プログラム

富山大学では、「アクティブ・ラーニング」「データサイエンス教育」「英語教育」を教育の3本柱として推進しています。

特集では、そのうちの一つ「英語教育」をクローズアップ!

2023年春季休業期間中、初の試みとして実施した学部1年生限定の短期海外派遣プログラムについて紹介します。

英語教育に定評のある大学で集中的に英語を学び、 交流を通じて今しかできない体験を!

コロナ禍の影響で困難な状況になっていた海外留学ですが、
現在では少しずつ復活の兆しが表れてきています。

富山大学では、3月5日から2週間、学部1年生をマレーシアとフィリピンの
大学に派遣する短期海外派遣プログラムを実施しました。

気になる内容や実施の経緯等について、このプログラムを主導してきた
国際機構 交流部門の吉川朋子准教授にお話を伺いました。



国際機構 交流部門 准教授 吉川 朋子

学部1年生限定

短期海外派遣プログラム

出発日 : 2023年3月5日

研修日数 : 2週間

対象学生 : 学部1年生

参加人数 : 57名

研修先

●トウンク アブドゥル ラーマン大学(マレーシア)



マレーシアにある私立大学で、2016年に大学間交流協定を
締結。交換留学での交流もあります。



●アテネオ デ マニラ大学(フィリピン)

フィリピンで3番目に古いカトリック系の私立大学で、2022
年12月に大学間交流協定を締結。フィリピン国内ではフィリ
ピン大学やデラサール大学と並ぶ名門大学です。



ポイント1

英語教育に定評のある
大学で学べる

ポイント2

参加者は富山大学基金
から10万円を補助

ポイント3

往路(富山空港から派遣
先大学)は教員が引率

参加者メッセージ Message



医学部医学科1年
小島 優美さん

英語が相手に通じるか不安でしたが、親切な現地の学生、先生方のおかげでとても楽しい日々を過ごせました。マレーシアには様々なバックグラウンドを持つ人がいて、多様な文化に触れることができました。日本とは違った習慣や伝統はとても興味深く、英語でよりスムーズにコミュニケーションを取りたいと思うようになりました。



人文学部人文学科1年
吉田 拓馬さん

初の海外渡航だったので、日本との様々な違いに驚きながらも、新鮮な毎日を送ることができました。アテネオ デ マニラ大学の語学学校 ALLCでは1日中英語の勉強をしましたが、苦ではなかったです。先生の英語は聞き取りやすく、伝えようとすれば汲み取ってくれます。課題が毎日出てツライところもありますが、2週間とても楽しかったです!

実施の経緯

学生たちに海外体験を！ 齋藤学長の言葉がきっかけに。

1年生の教養教育が終わる時に、英語学習を頑張った学生に海外体験をさせてあげたいという齋藤滋学長の意向から今回のプロジェクトは始まりました。

大学を挙げて国際人を育てようという意気込みが、富山大学基金からのひとり10万円の援助に表れています。英語学習は日本でもできるけれど、やはり現地に足を運び、その国の空気感や文化を体験することが大事。グローバル社会に踏み出す第一歩にして欲しい。そんな齋藤学長の強い思いを受け、国際機構と留学支援課がサポートすることになりました。

実は当初、2021年度に実施する予定で準備を進めていたのですが、コロナ禍の影響で、やむなくオンライン研修に変更したという経緯があります。当時の研修先はトゥンク アブドゥル ラーマン大学(マレーシア)、



オンライン研修

マーレー州立大学(アメリカ)、フランクリン マーシャルカレッジ(アメリカ)の3大学です。

その中の1校で、富山大学の学生が英語でプレゼンテーションをし、その内容について海外の学生と英語でディスカッションをする機会がありました。すぐに打ち解け合って楽しそうに会話していたのがとても印象に残っています。

今回実施した学部1年生限定の派遣は初の試みということもあり、「現地でたくさんのことを学んできてほしい」という思いで送り出しました。

短期海外派遣プログラムの特長

英語教育に定評のある大学で、語学+ α (プラスアルファ)の体験を。

派遣先はどちらも英語研修専門の部署を有しています。トゥンク アブドゥル ラーマン大学は、コロナ禍以前から短期英語研修の派遣先として交流がありました。アテネオ デ マニラ大学は、コロナ禍で海外派遣ができない時期に、オンラインでの英語研修先として、交流が始まりました。

さらに今回は、プラスアルファのリクエストとして、学生交流や文化体験、学外見学もお願いし、ただの英語研修ではないものになっています。それぞれの大学で趣向を凝らしたプログラムを、富山大学のために実施していただきました。



海外留学のススメ

黙らない。とにかく話す。気づけばそれが自信になる！

研修先の先生方には日本語が全く通じません。授業も事務手続きもすべて英語です。不安ですよね？だから学生には「黙っていたら絶対に上達しない。間違っても気にしない。とにかくしゃべってみて」とアドバイスしています。大丈夫、意外にやれるんだと自信がついたらいいなと私個人としては思っています。

齋藤学長も、研修から帰ってきた学生が、他の学生にどんな影響を与えるのかをとても楽しみにしています。派遣をサポートした私たちとしても、海外での体験を授業の中で、あるいはSNSなどで友人たちと共有していく中で、海外研修への関心が広がっていくことを期待しています。興味があれば、ぜひ参加してください。私たちがしっかりサポートします。



よりよい人間社会をつくるために、どんな都市空間が必要なのか

富山市中心街に空きビルを活用した学生シェアハウス「fiil (フィル)」が4月に本格オープン。これは、まちなかに学生の居住を促すことで、中心市街地の活性化に結びつけようというプロジェクトです。発案者である久保田善明教授に、シェアハウス誕生の背景や経緯、都市デザインについてお話をうかがいました。



●学生シェアハウス構想のきっかけは？ まちなかに若者がいない！

2016年10月、富山に着任してすぐに気づいたのは「まちなかに若者が少ない」ことでした。五福キャンパスには6,700人ほどが学んでいるはずなのに!? 周りに「キャンパスの外ではどう過ごしているのか」と聞いたところ、「自宅」「郊外のショッピングモール」「アルバイト」などで、まちなかに入っていない。では「自宅」はどこかかというと、ほとんどがキャンパス近くのアパートです。新入生に紹介されるのは大学周辺の物件ばかりで、まちなかという選択肢はなく、学生向けの物件もないことがわかりました。

ならば、既存のアパート物件に頼らず、まちなかで新たな物件をつくろうと考えたわけです。



●空きビルに目をつけた理由は？ 空きビルを新たな物件として活用

空き地や空き家、空き店舗、空きビルなどが増え、都市の密度が低下する「スポンジ化」が全国で深刻化しています。富山市の中心市街地も空きビルが点在している状況でした。そこで、富山市民プラザ（第3セクターのまちづくり会社）に「空きビルをシェアハウスにできないか」と相談したところ、非常に関心を持ってもらい、具体的な実現に向けた模索がスタートしました。

候補物件は立地や構造、改修費用等をふまえて検討し、市電通りに面した元証券会社の5階建てビルに決定したのですが、オフィスビルをシェアハウスに転用するため、採光窓の確保など建築基準法をクリアするのはずいぶん苦労しましたね。

●まちなかシェアハウス「fiil」が果たす役割とは？ まちづくりと人づくり

入居条件は「まちなかの活動に参加できる学生」です。実際、まちで暮らし、地域住民、商店主、企業と交流し、共に活動することは、学生自身の成長にもつながるうえ、まちなかの新たな賑わい、活動が生まれることが期待できると考えています。

また、県内企業・団体が丸となって意欲ある学生を支援する「まちなか学生シェアハウス サポートクラブ」を設立。学生たちのまちなかでの活動等を、財政面や物品面から支援する仕組みも作りました。現在30社以上が参加しています。

まちづくりを考えるには50年、100年先を見据え、今何をすべきかを考えなくてはなりません。まちなかシェアハウスの活動が軌道にのれば、今回のノウハウを活かして第2・第3の「fiil」につなげていきたいと思っています。



●富山大学で学ぶ「都市デザイン」とは？ 人が活動する領域の理想を具現化する

都市デザイン学部は、端的にいうと、人が活動している領域の理想を具現化するために研究・実践する学部です。人が活動しているあらゆる領域が対象になるのでとても幅広く、都市空間や中心市街地ばかりでなく、郊外や中山間地も含まれます。

もし、都市デザインに興味があれば、国内外のいろんなまちを見てください。建築物、駅、商店街、交通網など、関心あるテーマに絞って観察してみると、いろんな発見があるはずです。それをきっかけに、もっと都市デザインに関心を持ってもらえたらいいなと思います。



TOMIDAI NEWS

富山大学と三協立山株式会社との共同研究講座を設置

8月24日、富山大学五福キャンパスにおいて、三協立山株式会社との共同研究講座設置に係る共同記者会見を開催しました。本学からは齋藤学長、北島研究担当理事、柴柳先進軽金属材料国際研究機構副研究機構長・先進アルミニウム国際研究センター長が、三協立山株式会社からは平能社長、花木技術統括室長・三協マテリアル社副社長、高井三協マテリアル社理事が出席しました。

今回の共同研究講座設置は、富山大学が有するアルミ基礎的研究資源と三協立山株式会社が有する製造技術資源を融合し、単独では困難な研究課題に果敢にチャレンジすることで、新たなシナジーを生み出し、カーボンニュートラルへの礎を築くとともに、社会変化に資する研究成果の実現を目指すことを目的としています。



第1回富山大学リエゾンプロフェッサー・アセンブリーを開催

11月24日に、第1回富山大学リエゾンプロフェッサー・アセンブリーを開催しました。

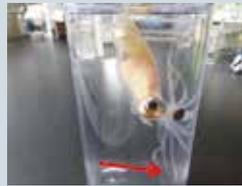
本学では、国際ネットワーク強化のための方策として、今年度、リエゾンプロフェッサー制度を創設しました。同制度は、本学の卒業・修了生等で海外の大学等で教育研究職に就いている者をリエゾンプロフェッサーとして委嘱し、国際交流に関する諸活動を行ってもらうことで、本学の更なる国際ネットワークの構築・推進につなげることを目的としています。



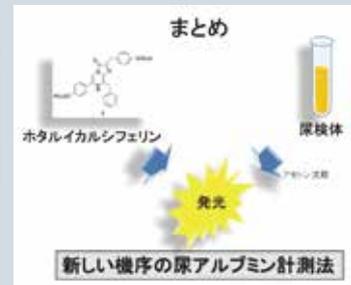
ホタルイカの光を糖尿病腎症の早期診断に利用する

学術研究部医学系の石本哲也助教授らは、ホタルイカの発光に必要なルシフェリンという化合物が、アルブミンと結合して発光するという現象を発見しました。

糖尿病の合併症の糖尿病腎症の早期診断には、尿中のアルブミンという蛋白質の濃度測定が不可欠です。ホタルイカルシフェリンを尿中アルブミンの測定に使用するために、尿中蛋白質の精製法や反応条件を最適化し、ホタルイカルシフェリンを用いて尿中アルブミンを定量することに成功しました。ホタルイカが医療計測のために役立つという報告は今回が初めてです。



ホタルイカは第4腕から強い光を放出する。



「GEIBUN オープンエアミュージアム in 環水公園 2022」を開催

芸術文化学部は9月3日から25日までの期間、富岩運河環水公園を会場とし、「GEIBUN オープンエアミュージアムin環水公園2022」を開催しました。この取組みは2010年より実施しており、今回で13回目の開催となります。



会場の環水公園は、豊かな緑と水に囲まれた市民の憩いの場となっており、教員や学生が制作した作品を野外展示しました。それに加え、来場者が参加するワークショップや、現地で作品をつくりあげる公開制作を行い、一般市民や観光客の方々に教育研究活動を発表するとともに芸術文化への関心を深める機会を提供しました。





受賞者一覧

2022年6月～12月



○Neuro2022(第45回日本神経科学大会/
第65回日本神経化学学会大会/
第32回日本神経回路学会大会)
2022年6月30日～7月3日

<若手道場優秀発表賞>
(医学薬学教育部博士後期課程2年)
井城 綸沙



○とやまドローン学生交流競技大会
<優勝>

(工学部機械工学コース3年)
小道 文也、浦川 拓巳
(工学部電気電子工学コース1年)
山川 玲和
(工学部機械工学コース1年)
丹下 惟登、吉松 昇輝



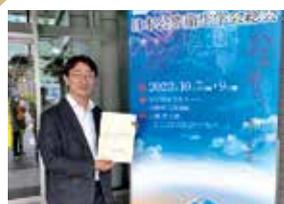
○第20回学生フォーミュラ
日本大会2022
2022年9月6日～9月10日

<総合6位入賞>
富山大学フォーミュラ
プロジェクトチーム



○第48回臨床神経病理懇話会
2022年11月12日、13日

<優秀発表賞>
(医学部医学科3年)
小川 京華



○第81回日本公衆衛生学会
2022年10月

<Best Reviewer賞>
(学術研究部医学系准教授)
山田 正明



○展覧会「工芸2022」
2022年11月19日～12月25日

<審査員賞>
(芸術文化学部美術・工芸コース3年)
近藤 虹輝



○2022年度塑性加工春季講演会
2022年6月3日～5日

<優秀論文講演奨励賞>
(理工学教育部機械知能システム工学専攻2年)
安田 開斗



○第78回北陸学校保健学会
2022年11月26日

<優秀発表賞>
(医学部医学科4年)
市川 純、染川 真由
(学術研究部医学系准教授)
山田 正明



○2022年度日本塑性加工学会
2022年6月3日

<新進賞>
(学術研究部工学系助教)
船塚 達也



○第76回富山県医学会
2022年12月4日

<優秀賞>
(医学部医学科5年)
後藤 佳伶
(学術研究部医学系准教授)
山田 正明



○2022年度グッドデザイン賞

<グッドデザイン賞>
福祉ホーム[ストリームビル]
(学術研究部芸術文化学系教授)
大氏 正嗣



○第84回日本病理学会中部支部
交見会
2022年12月10日

<学術奨励賞>
(医学部医学科6年)
住吉 紗代子



○2022年度グッドデザイン賞

<グッドデザイン賞>
10年を超えて続く産学官の
地域活性化活動
「高岡クラフト市場街」
芸術文化学部



○第62回富山県デザイン展

<奨励賞>
(芸術文化学部 建築デザインコース 2年)
石崎 フィリッペ



○World Congress on Micro
and Nano Manufacturing
2022(ベルギー)

<貢献賞>
(学術研究部工学系教授)
笹木 亮



○2022年度グッドデザイン賞

<ニューホープ賞>
(芸術文化学部2021年度卒)
吉田 陽菜 林原 穂高
山田 香菜 山上 桃



留学先 トUNK・アブドゥル・ラーマン大学 (マレーシア)

経済学部経営学科4年 辻 拓弥

この度は、富山大学基金事業学生海外留学支援プログラムの奨学生としてご支援いただき、誠にありがとうございました。

留学を通じて私が得られた成果は、語学力はもちろん、異文化理解、新しい言語への抵抗が減ったこと、積極的に人と話すこと、自分の意見を持つことです。

留学先がマレーシアということで、新しい言語としてマレー語と中国語を少し勉強していました。その甲斐もあって、現地の人とはマレー語で会話することにより理解や交流を深めることができ、学校では中国や台湾からの留学生の中国語がわかるようになり、話す機会が増えたので、とても嬉しく思いました。

積極的に会話をしていくうちに、人と話すことに抵抗がなくなりました。昔から、初対面の人には緊張することがありましたが、会話を続けていくと緊張感や抵抗感が少なくなったと思います。英語や様々な言語を話せることで、旅行先で出会った外国人とも会話でき、その人たちの国を知り、行ってみたいという気持ちが生まれました。

さらに、自分の意見を持つことの大切さを感じました。他国の留学生から「日本人は人に流されやすく、NOと言わない」と言われ、気づかされました。しっかりと自分の意見を持ち、それを相手に伝えることで初めて意見交換ができるということを改めて実感しました。



留学生同士の交流



クアラルンプール国際空港でのお見送り



ルームメイトとのホームパーティー

て実感しました。

今後も身に付けた言語を継続して学び、語学力を生かした仕事に就きたいと考えているので、外国にも支社がある企業を中心に就職活動を行っています。将来的には、海外での仕事を通じ、国際社会の発展に貢献できるよう努めていきたいと思っています。

留学先 オルレアン大学 (フランス)

人文学部3年 豊田 悠美子



オルレアン大学校舎

私はオルレアン大学のフランス語学院で、フランス語とフランスの文化についての授業を受けました。発音や文法など幅広く学習することができ、選択授業もあるので自分の苦手な分野を伸ばすこともできます。現地の学生と授業を受けることはありませんでしたが、学生主催のイベントなどを通じて現地や他国の学生と交流することができました。自分の目的を心に留めて授業を受け、周囲と積極的に話したことで少しずつ語学力が向上したと思います。また、宗教祭祀の地方差について、自分の研究をより深化させることもできました。様々な土地へ赴き実際に異なる文化や価値観に触れることは、自分自身の考え方を見つめ直すきっかけにもなりました。素晴らしい経験をさせていただき誠にありがとうございました。

この経験を元に、将来は、言語や文化の違いを伝え、それらに困っている人々を助けられるよう、留学を目指す学生の支援に携わることができたらと考えています。

富山大学基金へのご寄附のお願い

富山大学基金は、平成24年に本学の理念と目標である高い使命感と創造力のある人材育成、地域と世界に向けて先端的研究情報の発信、地域と国際社会への貢献を推進するため本学の学生修学、教育研究等に係る各種事業を支援することを目的として設立されました。この目的を達成するため、本学において基金を活用し、学生支援や教育・研究支援また、国際交流支援や地域社会貢献支援などの様々な事業に取り組み、有意な人材を育て地域とともに発展していきたいと考えております。

基金の種類

【富山大学基金（一般基金）】

学生支援、教育研究支援、国際交流支援、地域社会貢献支援、キャンパス環境整備等支援、基金全般

【修学支援基金】

授業料の免除、海外学生派遣支援、短期語学研修派遣支援等

【研究等支援基金】

学生または不安定な雇用状態にある研究者に対する支援

【リサイクル募金】

読み終えた本・DVD・ブランド品等の買取査定額を寄贈



寄附の方法

【銀行・ゆうちょ銀行からのご寄附】

ホームページから「富山大学基金寄附申込書」を出力し、郵送・FAXでお送りいただくか、ホームページの「寄附者情報申込フォーム」に必要事項を入力して送信してください。富山大学基金趣意書及び専用の「振込用紙」を郵送いたします。

【インターネットでのご寄附】

ホームページからクレジットカード決済、コンビニ決済及びペイジー決済をお選びいただけます。

【「ほくリンク」ポイントでのご寄附】

「ほくリンク」ポイントは、商品券やクーポン券等との交換に加え、登録されている富山大学等の教育機関や日本赤十字社などの公的機関へ1ポイント1円として寄附が可能となっております。富山大学基金は2019年10月に北陸電力株式会社が運営する「ほくリンク」ポイントサービスの提携先として登録されました。

【大学窓口でのご寄附】

大学窓口で現金にて寄附いただけます。

【遺言によるご寄附】

所有しておられる資産の一部を、将来、本学に遺贈（遺言によるご寄附）したいとお考えの方に対し、遺言信託業務を取り扱う提携銀行をご紹介します。

寄附者様ご芳名（令和4年4月～令和4年9月）

（寄附者のご芳名は五福キャンパス事務局棟玄関フロア及び富山大学基金ホームページでもご紹介しております。）

【個人】（50音順にて記載 敬称略）

秋岡 直樹	安部 行雄	有澤 宗久	五十嵐 修	稲垣 栄子	井ノ口 馨	猪又 峰彦	上野 博志
加賀谷重浩	川口 善治	川崎 宏	窪田 真弓	犀藤 一枝	坂井 昭寿	酒井 富夫	櫻井 義雄
佐藤莉和子	下岡 靖宜	下敷領 強	杉山 幸大	高井 正三	高木 繁雄	高橋 努	竹村 樹里
竹村 佳記	武山 良三	常本 悟	遠山 和大	中川 嘉	成田真由美	西坂 緑郎	西島 健史
野口 京	野島 宏	林 篤志	林 龍二	福田 明夫	藤本 誠	堀 悦郎	前田 等
森本 直幸	矢田 哲也						

（ほか公表辞退 28名）

【企業・法人等】（50音順にて記載 敬称略）

一般財団法人立仁会 株式会社北陸テクノソリューションズ 協同組合全国企業振興センター 富山大学生協同組合
北陸電力株式会社

（ほか公表辞退 4社）



ご寄附のお申し込み、お問い合わせは
富山大学広報・基金室にお願いいたします。
問合せ先：富山大学 総務部 総務課 広報・基金室
TEL：076-445-6178 E-mail：kikin@adm.u-toyama.ac.jp
URL：https://tomidaikikin.adm.u-toyama.ac.jp/

発行／国立大学法人 富山大学
編集／富山大学広報委員会
問合せ先／〒930-8555 富山市五福3190番地
TEL：076-445-6028 FAX：076-445-6063
E-mail：kouhou@u-toyama.ac.jp